

図書館員のひみつの本棚 第158回

自然の素晴らしさを伝えてくれる1冊です。

『センス・オブ・ワンダー』

レイチェル・カーソン／(著) 上遠恵子／訳 新潮文庫 1996年 1400円(税抜)

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年—— 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ — 一般☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「センス・オブ・ワンダー」。この言葉の意味を著者は「神秘さや不思議さに目をみはる感性」と述べています。『沈黙の春』で世界に自然破壊を告発した海洋学者である著者は、もし、妖精と話ができるなら、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー」を世界中の子どもたちに授けてほしいと願うそうです。人知を超えた地球の美しさと神秘を感じ取れる人は、人生に飽きて疲れることや、孤独にさいなまれることはない、とも述べています。

54ページと短い本ですが、読み終わって本を閉じた時には、忙しさに忙殺される毎日から、目が覚めたように感じる1冊です。

<子どもに手渡す時のポイント>

子どもをもつ大人向けに書かれた文章ですが、センス・オブ・ワンダーを忘れつつある十代の子どもたちにもぜひ読んでもらいたい1冊です。美しい写真が多数掲載されており短い時間で読めるので、朝の読書の時間やすきま時間にぜひ勧めてみてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

